※令和４年度以降入学生用

| 学校番号 | T3005 |
|---|---|

# 令和８年度　家庭科

| 教科 | 家庭 | 科目 | 家庭基礎 | 単位数 | ２単位 | 年次 | ２年次 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 使用教科書 | Creative Living　『家庭基礎』で生活をつくろう（大修館書店） | | | | | | |
| 副教材等 | なし | | | | | | |

## 1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

○実生活に身近な科目として興味を持ち、基礎的な知識と技能を身に付けましょう。
○この先のライフステージで起こる様々な課題を見通し、生活を創造できるよう、学んでいきましょう。
○学んだこと、考えたこと、身に付けた技能を実生活に活かし、自立を目指しましょう。

## 2　学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、より良い社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を身に付ける。

（１）　人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けている。

（２）　家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。

（３）　様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

## 3　評価の観点及びその趣旨

| 観点 | a:知識・技能 | b:思考・判断・表現 | c:主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|---|
| 観点の趣旨 | 人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活，衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技能を身につけている。 | 人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて課題を見いだし，その解決を目指して思考を深め，適切に判断し，表現を工夫するなど，生活を創造する能力を身につけている。 | 人の一生と家族・家庭及び福祉，衣食住，消費生活などについて関心をもち，その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに，実践的な態度を身につけている。 |

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

| 学期 | 単元名 | 学習内容 | 単元(題材)の評価規準 | 評価方法 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 知(a) | 思(b) | 主(c) |
| 後期（中間考査まで） | 人の一生と生活マネジメント | 1. 生涯、発達し続ける.<br>2. 子どもからおとなへ<br>3. 自立の達成をめざそう<br>4. 意思決定を重ねてつくる人生<br>5. どんな生き方をする？ | a:生涯発達の考えかたに立ち，各ライフステージごとの特徴と課題、ライフスタイルや生活にかかわる価値観の多様化，意思決定の重要性について理解している。青年期の自立について理解している。自立とは何かについて理解している。充実した人生を送るためには，生活時間の配分や計画化および将来の生活への目標や展望が重要であることを理解している。<br>b：高校生活の課題，自己の生きかた，将来の家庭生活と職業生活のありかたについて考えを深めながら，生活設計を立案したり，発表したりしている。自立や男女の平等と相互の協力などの青年期の課題について，自己の生きかたと関連させて考えを深め，発表したりしている。自立について考え、発表したりしている。<br>c：各ライフステージの特徴と課題やさまざまなライフコースがあることについて考えようとしている。意思決定の意義と方法を理解しようとしている。 | 定期考査 | 定期考査<br>成果物 | 授業観察<br>ノート |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 家族・家庭生活のマネジメント | 1. 家族ってなんだろう<br>2. わかってくれて当然？<br>3. 家族は人生と生活マネジメントの拠点<br>4. 法律からみる家族･家庭<br>5. ダイバーシティの実現をめざす | a：現代の家族の特徴および機能、家事労働と職業労働の特徴、家族・家庭に関する法律、多様な生き方，多様な価値観で成り立つダイバーシティの社会について理解している。現代の家族の特徴や機能とその変化などについて具体的な事例を調査・研究し，発表することができる。固定的な性別役割分業意識の見直しや仕事と生活の調和，男女が協力して築く家族・家庭について意見交換ができ，実際の場面においても対応できる力を備えている。<br>b：親子関係や夫婦関係などの家族関係のありかたや各自が担う家庭での役割、家族・家族に関する法律をもとに，社会制度としての家族、男女がともに家庭生活の責任を果たし，人間らしい生きかたをするための課題について，具体的な事例や演習を通して考えを深め，まとめたり，発表したりしている。<br>c：現代の家族の特徴や家族関係および家庭の機能，家事労働と職業労働、などに関心をもち，これからの家族のありかたや社会とのかかわりについて考えようとしている。に関心をもち，社会制度としての家族について考えようとしている。家族の問題を社会の問題としてとらえ，その解決方法を考えようとしている。男女共同参画社会の実現，ダイバーシティの社会を実現することの大切さについて考えようとしている。 | 定期考査 | 定期考査<br>成果物 | 授業観察<br>ノート |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 子どもの生活のマネジメント | 1. 子どもの世界を知る<br>2. 命の誕生<br>3. こんにちは、赤ちゃん<br>4. 好奇心いっぱい！<br>5. 子どものいる暮らし<br>6. 子どもの仕事は「遊び」<br>7. 子どもの健康と事故<br>8. 親になるということ<br>9. 社会で子育て | a：妊娠の確認、母子健康低調、妊婦検診など、妊娠・出産にかかわる知識について理解し適切に対応できる力をもっている。子どもの成長や発達、健康と安全、基本的生活習慣や社会的生活習慣について理解している。親の果たす責任や子育てをする保護者の課題について理解している。<br>b：人の一生における子どもの時期や子どもの発達段階やその適切な援助などについて考え、発表してりしている。<br>c：育てられる立場と育てる立場の両方の視点に立って考えようとしている。子どもの安全や子育てへの社会的支援について意欲的に考えようとしている。 | 定期考査 | 定期考査<br>成果物 | 授業観察<br>ノート |
| | 高齢期の生活のマネジメント | 1. 人生 100 年時代の高齢期<br>2. 年をとると変わること<br>3. 高齢期の生活を支える<br>4. 介護を支える<br>5. これからの高齢社会 | a:加齢に伴う心身の変化と特徴や高齢者の生活実態 、それを支える具体的な方法などについて理解している。高齢社会の現状と課題、高齢者福祉の基本的理念、介護保険制度の目的と概要について理解している。日本の高齢化の特徴と課題を理解している。<br>b:高齢者の生活の現状や課題、高齢者の介護や介護する家族が直面する課題について考えをまとめて発表することができる。<br>c:高齢者の加齢に伴う心身の変化と特徴に関心をもとうとしている。高齢社会の現状や課題、高齢者の自立生活支援および介護の心構えについて考えようとしている。 | 定期考査 | 定期考査<br>成果物 | 授業観察<br>ノート |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ＳＤＧｓの実現を目指す社会 | 1. 生活課題の乗り越え方<br>2. みんなで支え合うしくみ<br>3. ともに生き、社会をつくる<br>4. 地球があぶない<br>5. ライフスタイルの最高<br>6. めざせ！持続可能な社会 | a:生活のリスクとそれを支えるものとして福祉があること、セーフティネットワーク、自助・互助・共助・公助について理解している。社会保障制度や共生社会の理念について理解している。大量生産、大量消費、大量廃棄の生活が環境へ与える負荷や持続可能な社会を実現するための必要な法律や制度について理解している。資源調達から廃棄までの各段階における環境負荷について検討し、環境に調和した生活を工夫することができる。<br>b:自助・互助・共助・公助の具体的事例やセーフティネットワークについて、調査・研究し、発表することができる。環境に調和したライフスタイルのあり方について考え、発表することができる。<br>c: 現代社会における生活リスクや自助・互助・共助・公助のあり方について考えようとしている。自分の能力をいかした地域活動について考えようとしている。消費生活と資源や環境とのかかわりや環境負荷の少ない生活の実践について考えようとしている。 | 定期考査 | 定期考査<br>成果物 | 授業観察<br>ノート |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 後期(期末考査まで) | 経済生活のマネジメント | 1. 生活を営むためのお金<br>2. 経済のしくみを知ろう<br>3. お金と上手につきあう術<br>4. 18 歳で変わる消費生活<br>5. 進むキャッシュレス化<br>6.「お金を借りる」ということ<br>7. 消費者トラブルの今<br>8. 消費者の自立を支援する<br>9. 情報社会を生きる<br>10. 私たちが社会を動かす | a：経済自立、収支と支出からなる家計、生涯を見通した経済計画の必要性、契約、多様化する消費者問題の特徴、問題商法の種類と被害の内容および回避の方法、契約上の問題から消費者を救済する制度や法律について理解している。<br>b：自身の経済活動が企業や政府などの経済活動とつながっていることや、生涯に起こりそうなリスク、多様化する消費者問題に対する対処法などについて考えをまとめ、発表することができる。自己の生活に起こったことと関連付けながら生活情報の活用について考えをまとめ、発表することができる。<br>c：自分の将来を見据えて、労働や職業について考えようとしている。起こりそうなリスクを想定しながら、経済計画について考えようとしている。消費者問題に関心をもとうとしている。生活情報の収集・選択と活用について関心をもち、どのように行動するべきかを考えようとしている。 | 定期考査 | 定期考査成果物 | 授業観察ノート |
| | 食生活のマネジメント | 1. 体と心を満たす食事<br>2. 食生活、イエローカードかも？<br>3.「栄養バランスがよい」とは？<br>4. 炭水化物を摂る<br>5. 脂質を摂る<br>6. たんぱく質を摂る<br>7. 無機質を摂る<br>8. ビタミンを摂る<br>9. 豊かな食卓に<br>10. 食品のプロフィールを知る<br>11. 食品を安全に取り扱う<br>12. 持続可能な食生活 | a：５大栄養素の種類と機能および代表的な食品、食事の役割、食事摂取基準、食群別摂取量について理解をしている。栄養素の種類と機能を理解したうえで、献立を立てることができる。調味料・香辛料・食品添加物について理解している。食中毒の発生状況や原因について理解している。調理の基礎技術について理解し、身につけている。<br>b：自分の食生活や家族の食生活を分析し、改善方法について考えをまとめ、発表すること | 定期考査 | 定期考査成果物 | 授業観察ノート |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 13. みんなでおいしい食事をしよう<br>14. 調理のワザを身につける | ができる。栄養素の種類と機能をふまえ、食品を組み合わせて摂る献立を考え、発表することができる。食品の安全性について思考を深め、発表することができる。調理の技術を積極的に身につけようとしている。<br>c：現代の食生活や食生活を見直す必要性について考えようとしている。家族や自分の食生活について、栄養素と健康とを関連させて考えようとしている。食の安全について関心をもとうとしている。食生活の多様化や食環境の変化に興味・関心をもち、調理実習や実験に取り組んでいる。 | | | |
| | 衣生活のマネジメント | 1. 人と被服のかかわり<br>2. 被服の保健衛生的機能<br>3. 被服の社会的機能<br>4. 被服材料と性能<br>5. 被服を長持ちさせる手入れ<br>6. 被服と安全<br>7. 衣生活の PDCA<br>8. 持続可能な衣生活 | a：人が被服を着る理由について知る。被服の機能、材料の種類と特徴、洗剤の働きとしくみ、資源の有効利用するための被服計画の必要性、ライフステージごとの衣生活の課題を理解している。被服の表示に示されている情報を理解し、適切に被服を管理することができる。縫製の基本技術を身につけている。<br>b：被服の機能、健康と安全に配慮した被服の活用、再生利用および適正な廃棄の方法、被服管理について考えをまとめ、発表することができる。<br>c：人間と被服とのかかわりについて考えようとしている。自分の衣生活を振り返り、課題をみつけようとしている。選択の種類や汚れの種類、洗剤の成分について関心をもち、適切な選択の方法について考えようとしている。環境に配慮した衣生活の営みについて考えようとしている。 | 定期考査 | 定期考査<br>成果物 | 授業観察<br>ノート |

※令和４年度以降入学生用

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 住生活のマネジメント | 1. 住まいを知ろう<br>2. 日本の住文化を知ろう<br>3. 住む人の生活と住まい<br>4. 心地よく暮らすために<br>5. 安全に安心して暮らす<br>6. 住まいを長く使う<br>7. 住環境を見つめてみよう | a：住まいの機能、人の暮らしの変化と住まいの変化、気候風土と住まいの工夫、生活と住空間とのかかわりについて理解している。平面図を読み取り、住空間の計画について検討できる。健康や安全に配慮した室内環境の整備、住宅政策、住まいの管理について理解している。<br>b：日本や世界の住まい、日本の気候風土に合わせた住まいの工夫、健康や安全に配慮した住環境、自然環境や社会環境と住生活の関連について考えをまとめ、発表することができる。<br>c：住まいの機能、人間と住まいとのかかわり、住生活の文化、ライフステージに応じた住空間の計画、住宅政策と課題について興味・関心をもち考えようとしている。 | 定期考査 | 定期考査<br>成果物 | 授業観察<br>ノート |
| | ホームプロジェクト | ・ホームプロジェクトとスクールプロジェクト | a：長期的な生活計画を立案する際の課題、「ホームプロジェクト」と「スクールプロジェクト」の意義と実践方法について理解している。青年期の課題をふまえて、充実した人生を送るための生活設計を立案できる。<br>b：自分の夢や希望を実現するための職業生活・家庭生活・地域社会生活・経済生活など、さまざまな視点で考えをまとめ、発表することができる。<br>c：将来の生活設計に立案に取り組んでいる。「ホームプロジェクト」と「スクールプロジェクト」について関心をもち取り組んでいる。 | 定期考査 | 定期考査<br>成果物 | 授業観察<br>ノート |

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度